



後世に誇れる循環型社会を目指して!

ゴミ問題に対する高萩市公明党のこれまでの取り組み

- 平成12年5月国会で「循環型社会形成推進基本法」が公明党の推進により成立しました。
- 平成12年6月議会では、「3ゼロ社会」の中の「ゴミゼロ」の観点から、高萩市においても循環型社会の構築が非常に重要であることを取り上げました。
- 平成12年9月議会では、地球温暖化対策として自然エネルギー発電開発を国に対して意見要望するべきと提言しました。
- 平成12年11月号の高萩通信でマイバック運動と生ゴミコンポストを提唱しました。
- 平成13年3月議会では、「エコタウン」事業を参考に「地球温暖化対策」「環境ホルモン」「自然エネルギーの有効活用」「ゴミ処理場の付加価値」等提案してます。そして「エコタウン宣言」を提唱しました。
- 平成13年9月議会では、「エコタウン」の話を進めながら「バイオマス発電、太陽光発電、風力発電、雪氷エネルギー」など自然エネルギーの活用を取り上げました。その中で具体的事例として、神戸市ポートアイランドでの環境省の実験施設であったバイオマス発電施設を紹介しました。
- 平成14年3月議会では、「3ゼロ社会」と「エコタウン」の確認をしました。
- 平成15年、日本加工製紙跡地への産廃業者の進出について、賛否だけではなく真剣に議論するべきと訴えました。
- 平成15年12月議会では、高萩市のゴミ処理の現状とダイオキシンの発生について、誤解と誤認識を正し、市民に理解を求めました。そして、「自治体としてのゴミ処理の責任」「ゴミの減量化とリサイクル・資源化」「マイバック運動推進と支援」「不法投棄」「野焼き撲滅」「不法投棄監視員のあり方」等言及しました。
- 平成16年6月から平成17年3月までのゴミ処理特別委員会では積極的に取り組みました。
- 平成16年12月議会では、京都議定書の発効決定に伴い、高萩市が二酸化炭素排出削減目標を達成するための具体的な方策として、バイオマス発電を取り上げ、明確な数値を提示しました。また、二酸化炭素6%削減に向けて個人レベルでのエコライフの実践を開始しました。
- 平成17年6月議会では、「環境都市宣言」を支持しました。また、市執行部から提起された新処理方式である高速堆肥化と炭化施設を支持し、推進の考えを示しました。

私達公明党は一貫して取り組んできたからこそ、自信を持って主張しております。市民のための判断なのか、利害のための言動なのか、市民の皆様にはしっかり監視していただきたいと思えます。ご意見をお聞かせください。

平成17年 第1回 臨時議会の報告 (会期：6月30日～7月5日)

臨時議会開催理由：6月定例議会最終日に市執行部から3件の追加議案が提出されましたが、議長は「あまりに急な提出なので」という理由から不受理し、定例議会を閉会しました。

普通、市長から議案が出されれば議会は審議しなければなりません。議長の判断は違法性のおそれもあります。その差し戻された議案3件が再提出され、その審議のための臨時議会でした。

<提出された議案>

議案第53号……地方自治法第96条第2項の規定による議会の議決すべき事件に、可燃性ゴミの中間処理方式に関することと、中間処理施設の設置場所に関することを追加しようとする、条例の改正案。

議案第54号……条例の改正を受け、①中間処理方式を高速堆肥化処理方式と熱分解（炭化）処理方式の併設とすること。
②設置場所を赤浜地区工業団地TK-1とすること。

議案第55号……ゴミ処理施設整備に伴う生活環境影響調査のための補正予算案。

<審議の流れ>

6月30日……議案第53号上程、質疑、委員会付託。
7月1日……文教厚生委員会での審議、採決の結果、否決となる。
7月4日……本会議、討論、採決の結果、賛成8－反対9で否決となる。
7月5日……条例改正案が否決されたことで第54号と第55号は取り下げとなり閉会。

この結果ゴミ問題はまたしても先送りとなりました。可燃ゴミを日立市に依頼している高萩市は、待ったなしの状況であり、**反対した議員は説明責任を果たさなければなりません。**

反対した議員：横山正勝、吉川道隆、中井信行、金沢典胤、本多祐治、舟生佳紀、平正三、矢代洋三、寺岡七郎の各議員（敬称略）

賛成した議員：菊地正芳、今川敏宏、鈴木英樹、鈴木修二、作山里美、篠原新一郎、飯田邦明、根本栄の各議員（敬称略）

今後の対応としては、ゴミ処理計画の策定をすすめ、市民との対話を積み重ねて行くように努めてまいります。ご理解ご協力をお願い申し上げます。

市民相談・法律相談はお気軽にご連絡ください

〈発行・連絡先〉 今川敏宏 電話 24-3079
菊地正芳 電話 23-7876